

増穂だより

vol.227



芝浦工業大学柏中学高等学校 〒277-0033 千葉県柏市増尾700番地
 TEL : 04-7174-3100(代) FAX : 04-7176-1741
 URL <http://www.ka.shibaura-it.ac.jp/>

■編集 / 芝浦工業大学柏中学高等学校 総務部
 ■発行日 / 令和4年3月23日 発行
 ■印刷 / 株式会社横浜総合写真



Contents

■ 巻頭 (学校長)	2P	■ 高校40期生卒業式	5P
■ 各部情報 (厚生部/図書室/グローバル委員会) /生徒会本部 (中学/高校)	3P	■ 学年情報 (中学/高校)	6P
■ 芝柏探究活動	4P	■ PTA情報/後援部情報	7P
		■ トピックス	8P

後世への最大遺物

学校長 野村 春路

内村鑑三（1861～1930）は、江戸時代の末年に生まれ明治から昭和にかけて生き、その思想を後世に残したキリスト教思想家である。上州（群馬県）高崎藩士の子として江戸藩邸に生まれ、幼少期に数年間高崎で暮らしている。群馬県の郷土かるた「上毛かるた」の「こ」の札は、「心の燈台、内村鑑三」となっている。札幌農学校入学後、プロテスタント系キリスト教の洗礼を受けた。卒業後渡米してアマースト大学などに学び、1891（明治24）年第一高等中学校（現：東京大学教養学部など）講師の職を得たが、教育勅語に対する不敬事件のため辞職に迫り込まれた。その後、新聞記者となり、足尾鉍毒事件での社会正義の主張、日露戦争時の非戦論など、信仰と世界的視野に立つ愛国・正義の論陣を張った。キリスト教に関しては、既成の教会のあり方を批判して、聖書の研究・講解を中心とする無教会運動を展開した。

内村には幾つかの重要な著作があるが、一方で話し手としても大変優れており、聞き手に感銘を与える名演説家でもあった。1894（明治27）年7月、箱根において開かれた夏期学校における講演録が、『後世への最大遺物』である。この時、内村は33歳であった。

この講演の主題は、その題名のとおり一人の人間が後世に遺し得るものは何かということである。まず彼は型にはまった宗教家が否定しがちな、金銭やそれを生み出す事業というものを肯定的にとらえ、人は金銭や事業を遺すことができると言う。次の段階として、金銭も事業も遺せない者は、それぞれの思想を言葉として遺して将来に贈ることができるとする。内村はその人の人生が土台となっている哲学や文学を評価しており、それゆえ歴史的に有名な先人の生きざまに大変興味があった。さて最後に金銭、事業、思想(言葉)の3つよりも、後世に遺せる大切なものは、「高尚なる勇ましい生涯」であり、その生涯を体現することだと結論付ける。

「私が考えてみますに人間が後世に遺すことのできる、ソウしてこれは誰にも遺すことのできる場所の遺物で、利益ばかりあって害のない遺物がある。それは何であるかならば**勇ましい高尚なる生涯**であると思います。これが本当の遺物ではないかと思う。他の遺物は誰にも遺すことのできる遺物ではないと思います。しかして高尚なる勇ましい生涯とは何であるかという、私がここで申すまでもなく、諸君もわれわれも前から承知している生涯であります。すなわちこの世の中はこれはけっして悪魔が支配する世の中にあらずして、神が支配する世の中であるということに信ずることである。失望の世の中にあらずして、希望の世の中であることを信ずることである。この世の中は悲嘆の世の中ではなくして、歓喜の世の中であるという考えをわれわれの生涯に実行して、その生涯を世の中への贈物としてこの世を去るということでありませう。その遺物は誰にも遺すことのできる遺物ではないかと思う。」

その先を続けて、内村はイギリスの歴史家カーライルや日本の二宮金次郎、アメリカの女学校の先生、徳川家康を挙げ、後世に遺せるそれぞれの生涯について具体的に説明をしている。そして、「われわれの生涯は決して五十年や六十年の生涯にはあらずして、実に水の辺りに植えた樹のようなもので、だんだんと芽を萌き枝を生じてゆくものであると思います。」と語り、人の生涯は樹木のような成長を遂げると捉えていた。

内村のこの見方について、批評家の若松英輔は、樹木は次世代のために実を結ぶが、その果実が他者にどのように役立ったかを樹木は知らない。同様に人間も生きている間に自分が何を成しえたかはわからないものであり、結局人の生涯は、いずれ来る者のための準備であると内村は見ていたと読み解いている。これを踏まえて、内村の講演の末尾は以下のように、締め括られることを確かめたい。

「われわれに後世に遺すものは何もなくとも、われわれに後世の人にこれぞというて覚えられるべきものはなにもなくとも、アノ人はこの世の中に活きているあいだは真面目なる生涯を送った人であるといわれるだけのことを後世の人に遺したいと思ひます。」

私にはキリスト者としての信仰があるわけではないので、内村の思想の深みを理解することはできない。とは言え、人の生涯は来るべき者への準備であり、準備であるからこそ、何かを成し終えることもなく準備中のまま、その生涯を終わったとしても、自分の生涯にはのちに誰かが「乗る」かもしれないから、きちんと生きなければならない。このことは、私の心に響くのである。

現在の私があるのは、名もなきあまたの先人の「真面目なる生涯」という遺物のおかげであり、そうであるとすると、今度は私が成した行いが、未来の誰かの生涯にささやかでも受け継がれることがあれば、それは大変な喜びであろうと思う。だがそれを自分で確かめることはできない。それでも人の生涯は他者への準備なのであるという内村の姿勢から、自分が真面目に成したと思えることの結果や影響を確かめることはできなくとも、それは後世の判断に委ねられる事柄なのであると理解できる。この点を広げて考えてみると、名前などわからない誰かが歩んだ跡に花が咲くような業績が本当に尊いのであり、歴史に名を残す人の業績よりも、無数の名もなき人々の生涯をかけた行いや生き方の集積が、人類の歴史を形作っているであろうと実感することもできる。

(参考図書)

- (1)内村鑑三『後世への最大遺物・デンマーク国の話』、岩波文庫、2011年。
- (2)若松英輔『内村鑑三 代表的日本人～永遠の今を生きる者たち』、NHK出版・名著ブックス、2017年。
- (3)同『内村鑑三 悲しみの使徒』、岩波新書、2018年。

各部情報

厚生部 厚生部情報

12月に中高福祉委員会が「赤い羽根共同募金」活動を行いました。事前にクラスで周知し感染対策を講じながら実施しました。中高合わせて43,839円を募金し、柏市長からお礼状をいただきました。

また、中学保健委員はカフェテリアの座席間隔を確保するための貼紙を整備しました。以前からテーブルの上に貼っていたラミネート用紙ですが、毎日の水拭きによるテープ部分の劣化を改修し、清潔に使えるようにしました。

春休みは意識的に心身を休め、新しい気持ちで新学期を迎えてください。



生徒会本部

中学 中学生徒会活動報告

中学生徒会では今年度主に文化祭でのオンライン企画、生徒総会（予算・議案編）、そして今年度より中学生徒会広報誌の「柏餅」を製作しました。文化祭では本校中学生に向けて、先生たちと簡単に対決できる種目に対決してもらい、当日事前に収録した動画を配信し、結果予想をGoogle formでもらうという企画をしました。そして全問正解した生徒には生徒会よりプレゼント、賞状を授与しました。

そして生徒総会では、予算編・議案編を5月と2月に行いました。「柏餅」は高校生徒会が制作している「柏樹」と同様にクラスページや委員長・部長ページ等を作りました。議案編の議案募集と時期が重なり、各クラスにはご迷惑をおかけしました。そしてご協力いただきありがとうございました。完成しましたら、全校生徒、各先生方に配布いたします。

図書室 2021年度 学年別図書貸出冊数ランキング

図書室は今年度も沢山の生徒の皆さんの利用がありました。学年別で図書貸出冊数を集計すると、

1位 中1 3800冊	4位 高2 1000冊
2位 中3 2200冊	5位 高1 800冊
3位 中2 1150冊	6位 高3 300冊

となりまして。中1が一番多く、学年が上がると貸出冊数が減少します。

図書室は春休み期間中も、授業日と同様の時間帯で開室しています。いつも利用している中学生の皆さんはもちろん、普段は忙しい高校生の皆さんもぜひ図書室に足を運んでみてください。沢山の利用をお待ちしています。

- ◆春休み開室日時：月～土 9:00～17:00
- ◆閉室日：4月6日（水）・7日（木）
- ◆春休み特別貸出：3月10日（木）～4月5日（火）
- ☆1人5冊まで
- ◆特別貸出返却日：4月12日（火）

高校 高校42期生徒会本部発足！

高校生徒会役員選挙が昨年12月に行われました。会長副会長それぞれに多数の立候補があり、その中から会長にS君、副会長にT君、Yさんが選出されました。S君は選挙に際して「今までの先輩たちから引き継いだ 芝柏の伝統を守る」ことを訴えました。その後、当選した3名が他の役員を募集し、書記にKさん、F君、会計にTさん、Tさん、庶務にK君、N君、M君、Mさんが任命されました。早速、球技大会や制服に関して調査を行うなど、4月の代替わりに 向けて活発に活動を始めています。



グローバル委員会 『海外留学総合説明会』

海外留学総合説明会第3弾を12/18に、第4弾を2/26に実施しました。

第3弾の説明会では、世界の大学進学情報、特にオーストラリアの大学進学を中心にお伝えしました。オーストラリア大使館担当者・現地の業者の方より、Zoomにて、オーストラリアの基本情報、留学先としてのオーストラリアの魅力をお話しいただきました。またクイーンズランド大学に進学した高校38期卒業生、クイーンズランド工科大学に進学する高校39期卒業生が来校し、オーストラリアの大学を志望した経緯や理由について、在校生・保護者の方にお話ししました。2人とも、本校のプログラムでオーストラリア現地に行ったことが海外大への進学を考えだしたきっかけとなったと語ってくれました。また海外大学進学に向けた英語の資格試験の勉強法もお話ししてくれました。

次に、海外留学総合説明会第4弾では、約200名の生徒・保護者の皆さんに、例年夏に実施している本校独自プログラムの海外短期留学ホームステイの説明、また海外大学がそれぞれ主催しているサマーコース（pre-college school）について、説明をしました。特に、本校主催、希望者対象の夏期短期留学ホームステイは、4か国（イギリス・オーストラリア・カナダ・アメリカ）から選んで、約2週間のホームステイを実施することができます。それぞれの国での2週間の旅程表について、説明がありました。

現地へ足を運んで英語を使い文化を知ることは、英語の学習意欲の向上につながり、現地の大学を見学することで、自分の進路選択のきっかけになります。



生徒探究発表会

2月12日に生徒探究発表会（SSH成果報告会）が行われました。今年度はコロナウイルスの影響により、外部向けにはオンラインによる発表となりました。発表者は学校に登校し、他の参加者（生徒・保護者・教育関係者など）はZoomを利用して自宅などから発表会に参加していただきました。発表会場内にいる生徒達とオンラインの方々を意識した発表は、当初はうまくいくか不安もありましたが、リハーサルの成果もあり質疑応答も含めてスムーズに行うことができました。その様子はまさにオンラインで行われる学会のようでした。探究活動においても、ICTを活用してきた経験が教員・生徒の双方にとってプラスとなったようです。

発表テーマ数は昨年度からさらに増え、135テーマにわたり、のべ225名の生徒が25部屋のZoomに分かれて発表を行いました。また、課題研究経験のある卒業生が多数参加して、質問・助言を活発に行ってくれました。これも本校の探究発表会の特色の1つになっています。

発表分野は人文・社会科学から理学・工学分野まで幅広いテーマでの研究が揃い、1年間の活動の成果をしっかりとまとめて発表に取り組みました。今年度の新しい活動としては、SSH活動として実施しているベトナム研修の交流校であるFPT高校の生徒と、スマートシティをテーマにした共同研究発表会を同時開催し、本校の生徒達は柏の葉地区をテーマに発表をしました。今後は、校外での発表に向けて、調整・仕上げを行っていきます。



高校生国際シンポジウム
探究・この劇的なもの

2月17・18日にかけて第7回高校生国際シンポジウムが開催された。本校からは過去最多となる8名が本選に参加し、高1の布施慶多『Comparison and further exploration of three works of "Ein Frauenzweikampf"』（『女の決闘』3人による著作の比較と検討）がスライド部門の人文科学・ジェンダー分野で最優秀賞及びグランプリ（全体1位）、高1の三村乙樹『エタノール蒸留中の温度変化』がスライド部門の化学分野で優秀賞、高2の市原光悠『曼荼羅の配色についての考察』がポスター部門の優良賞にそれぞれ輝いた。ある者は独語・英語・日本語を駆使しながら、太宰治の脳内で生じた創造を、ユング心理学やボランニーの暗黙知の概念を用いて解き明かし、ある者は教科書に何気なく書かれたエタノールの蒸留実験の温度測定が凡そ適切なものではないことを、粘り強い実験を通じて鮮やかに示し、またある者は曼荼羅に描かれた蓮の花の色が実物とは異なり濃い赤色で描かれる理由が、密教的な世界観における「慈悲」の概念を視覚的に表現したものではないかという仮説を、心理実験によって裏付けた。いずれの生徒も、既存の世界への“違和”を掘り下げ独自の結論を導き出している。この世界には不思議が溢れている。言葉を身につけた子供は世界に対して「なぜ？ どうして？」と問わずにはいられない。しかしながら、その素朴な疑問は、大人になるにつれ失われてしまう。社会性を身につけることは、時として既存の枠組みに無条件に従うことと同義にさえなりうる。“普通”の人と“異なる”発想や考えを持つ人は、“はぐれ者”として排除されるリスクを背負わなければならない。それでもなお、自らの直観が公的なものとして認知されるべく、表現者たちは己と向き合う。その涙ぐましい努力こそが、この世界に新たな価値を生み出すことになるのだ。「創造性の開発と個性の発揮」この崇高な理念を体現する生徒たちによるあくなき探究心によって、豊饒な世界が垣間見えることを至上の喜びとしたい。

人文社会系探究講演会を開催しました

2月25日に、千葉大学特別語学講師のオーリ・リチャ先生をお迎えして、「日本社会における差別～多様で生きやすい社会を目指して～」とのタイトルでワークショップを開催していただきました。高1～2年生の50名程が参加し、動画を題材にしたディスカッションを通して、身の回りにある「無意識な差別」について考えを深めました。「人は気持ちで繋がっているのだ」という話が心に響きました（高1）、「周りの人とのディスカッションを通じて自分では思っていたことに気づけてよかった。これからは、集団として人を見るのではなく個人、個人を尊重できるようになりたいと思った」（高2）といった感想が聞かれました。

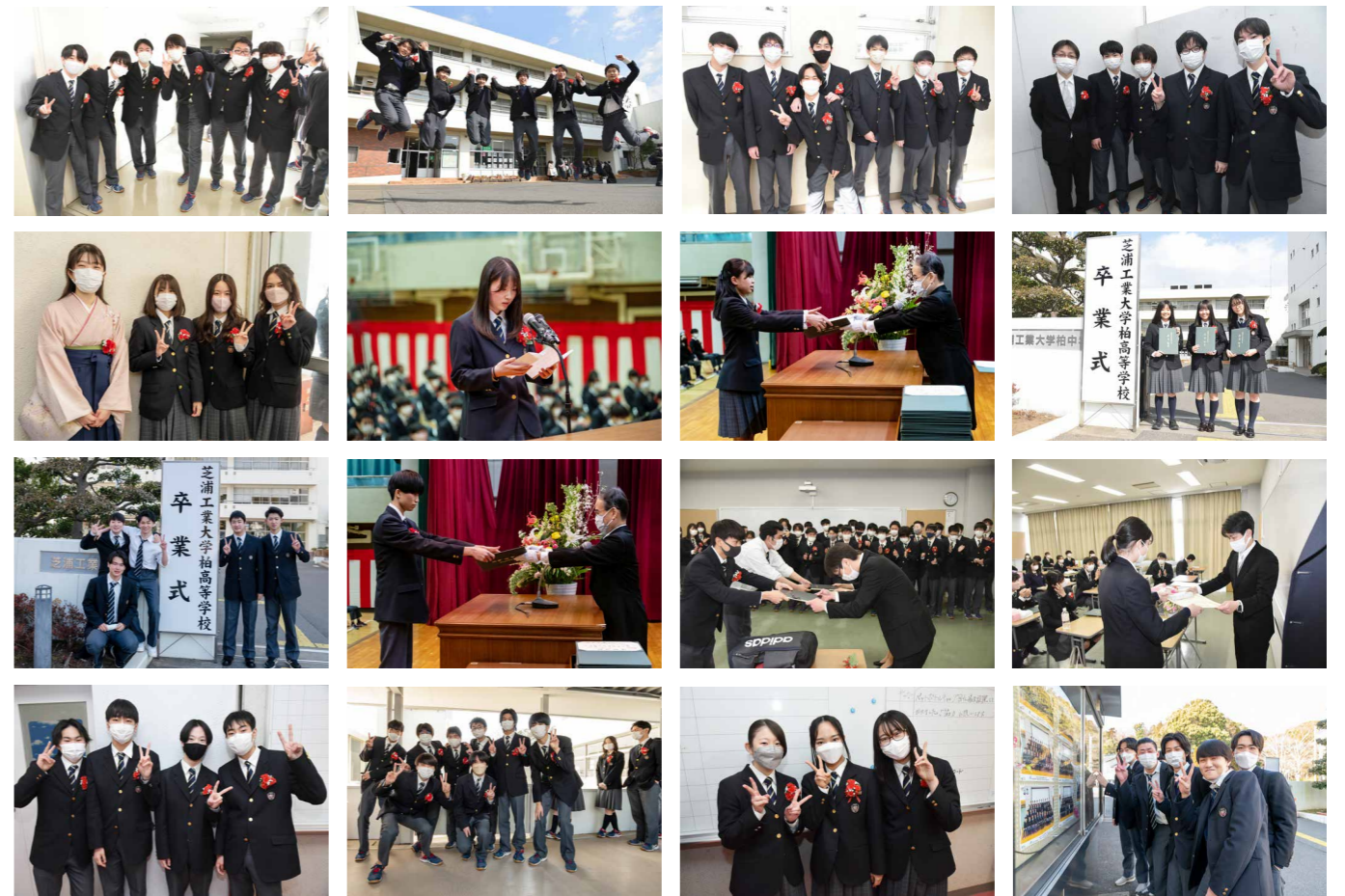


高3進路決定者探究発表会

2月26日（土）に高校3年生51名による探究発表会が行われました。これは、12月までに進学先が決定した生徒が、大学での学びの準備として進学分野に関連して自ら決めたテーマについて探究した成果を発表するもので、昨年度から行われています。「健康に良いの捉え方」（医療系進学生徒）、「拡張現実の技術課題と普及」（電気情報工学系進学生徒）、「家を購入する最適な時期」（経営金融工学系進学生徒）、「脊椎動物の欠陥構造“盲点”の不合理性と対応視野」（検査技術系進学生徒）など、実に多彩で興味深い発表が並びました。今年度は、発表の様子をオンラインにも配信し、高校3年生の保護者のほか外部の教育関係者も参観しました。



高校第40期生卒業



送辞

生徒会副会長

冬の厳しい寒さも和らぎ春の訪れが感じられるようになってきました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。今年も新型コロナウイルスの影響により、多くのことが制限された年でした。そんな中でも、皆さんの高校生活の終わりの時に立ち会えたことをとても光栄に思います。今、この中には高校生活での後悔、やりきれない気持ちなど様々な思いをもっている方がいらっしゃると思います。それは、部活動や委員会、他の行事についてのものであるかもしれません。ですが、皆さんがそこで見せてくれた勇姿は我々が鮮明に覚えています。ここで得た経験は無駄になることはないと思います。それらが生かされた時、この学校のことを思い出していただければ幸いです。これからの皆さんの健康と益々のご活躍を祈って送辞とさせていただきます。

答辞（抄）

第40期卒業生代表

新型コロナウイルスの影響が続く中、温かみにあふれた卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。高校生活の三年間は本当にあつという間でしたが、成長できた時間だったと思います。それぞれが勉強や部活動に励み、充実した時間を過ごしていました。しかし新型コロナウイルスが猛威を振るい始め、学校に行けない状況が続きました。その後、縮小して球技大会や文化祭を行うことができ、海外研修が中止になった分、みんなが全力で楽しもうと知恵を出し合い、とても良いものになったと思います。私たち四十期生はどの学年よりも活発で、笑顔が多いと思います。たわいもない話で笑い、悩みを真剣に聞いてくれる、とても温かい仲間に出会えたことが本当によかったです。「人生百年時代」とも言われる中で、三年間というのはとても短い時間だと思います。しかしこの短い時間に会った仲間、起こった出来事は何にも代えられない宝物だと思います。これからの迷ったり、立ち止まったりしたとき、相談できる仲間がいることが本当に心強いです。四十期生全員の未来が光輝くことを願い、答辞といたします。

高校三送会を終えて

高校三送会委員長

3月1日（火）に3年生を送る会を行いました。新型コロナウイルスの影響で高校生活の行事がかなり減っていたので少しでも三送会が思い出になればという思いがありました。新型コロナウイルスも落ち着いてきていたのですが、当初は例年通り体育館に集まって対面で行う予定でした。しかし、新型コロナウイルスが再び拡大してきたため、泣く泣く対面は諦めオンラインで行うことになりました。対面と比べたら出来ることは限られましたが、委員会以案を出し合って動画を作りました。動画に協力して下さった方々、お忙しい中ありがとうございます。規模は縮小しましたが3年生の皆様の思い出の1つになっていたら嬉しいです。



学年情報

中学 1 年 1 年間ありがとうございました

中学 23 期の保護者の皆様、何とか 1 年間無事に終わりました。

振り返ると、コロナの影響でグリーンスクールは中止、夏休み前は何の行事も行えず、生徒達もどこか寂しげでした。秋以降は待望の行事である運動会が実施され、大洗遠足では水族館のプロモーションポスターも作成し、オンラインの文化祭では、1 人 1 人夏期課題の環境地図、もしくは理科の自由研究を土台に、スライドを作成し、発表を行いました。中には高校生レベルの内容のものもありました。合唱祭はクラス対抗のため、まとまりが強まったと思います。なお、2 月予定の博物館見学は次年度への楽しみとします。

子供達はこの 1 年で私達の思う以上の成長を見せてくれています。4 月からはいわゆる反抗期を迎えるのかもしれませんが、今年同様保護者の皆様と一体となり、事にあたっていきたいと考えております。

高校 1 年 次年度に向けて

高校 42 期生は文理選択を終え、進路に向けて大きな一歩を踏み出しました。中学とは違う高校の学習に自信を失ったり、今になって、この文理選択が正しかったのか不安になったりと、心が大きく動いた一年だったかもしれませんが、この時期の高校生にとって、進路への不安は尽きないものです。むしろ、この選択が正しかったと思えるようにこれからの日々を丁寧に過ごしてほしいと願います。次年度の飛躍に繋げるためにも、この春休みは一年を振り返り、反省だけでなく、継続できたことや自分の小さな成果にも目を向けて、自信と自己肯定感を持って、新学期を迎えてほしいと思います。

また、これまで探究してきたことが、英語ディベート全国大会出場や、高校生国際シンポジウムでの受賞など、少しずつ成果となる仲間もできました。仲間刺激を受けながら、次年度も「POWER」を持って学校生活を送るとともに、今年度よりももっと笑顔が溢れる年になることを祈ります。

中学 2 年 CONSTELLATION

▽夜空に浮かぶ星々を結んで象られた星座たち。黄道十二宮をはじめオリオン座や北斗七星（おおぐま座の尻尾）など、ひとたび天空にその形を見出したなら、他の形に見違えることはない。まだ星座を知らない幼いころには、自分なりのつなげ方で、独創的な星座を天空に描いた人もいるかもしれない。▽これはとても不思議なことだ。星々のつなぎ方は恣意的であるはずなのに、ある見方の枠組みが与えられた途端、私たちの心はその一つの見方《布置》の奴隷になってしまう。▽日々の生活では、人と人との関係は常に変化しているし、さまざまな経験によってそれまでとは違った考え方をするようになる。それなのに《いつも・いつまでも》変わらぬもののように固く信じて、かえって傷ついてしまうことがある。▽多感なこの時期、なにかの苦しみに囚われたなら、あなたの心のなかの星座を、いちど解き放してみしてほしい。

高校 2 年 誠実に、ひたむきに

コロナ禍で始まった高 1 の 4 月からはや 2 年、今年度も実質変わらぬ環境下で終わりを告げました。その間、研修旅行は中止・延期を繰り返し、皆さんの諦めの表情を何度も目にしてきました。合唱祭も開催できていません。個々においてもたくさんの不完全燃焼があったことでしょう。それでもそれらを受け入れ、学校生活を送る皆さんの心の中は察するに余りあります。どんな慰めや励ましの言葉も空虚に思えてきます。そして、受験生としての本格的な始動、最後の総体と高校生活を締めくくる 1 年がやって来ます。これまでの 2 年、様々な困難や落胆にもめげずに走り抜いてきた皆さんなら、これからの 1 年もきっと強い心を持って乗り越えられるものと信じています。不当な戦争下に置かれた人々の怒りや悲しみに思いを馳せながら、頭は冷静に、心は熱く、あとしばらくここで知の旅を続けようではないか。誠実に、ひたむきに。

中学 3 年 ありがとうございました

多くの方のご協力により卒業式を無事に終えることができました。3 年間、ご指導、ご支援いただいた方々に厚く御礼申し上げます。卒業生の皆さん卒業おめでとうございます。皆さんはこれまで多くの人に出会い、多くの人に支えられました。この機会に感謝の気持ちを声に出して伝えましょう。そして、保護者の方におかれましては 3 年間、学年の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。

さて、卒業生の皆さん、4 月からは新たな仲間たちも加わり、高校 43 期生として再出発します。高校卒業後の自分の姿を思い浮かべて 3 年間を過ごしてください。これからは今まで以上に自分の意志で様々なことを決めていかななくてはけません。保護者の皆様、高校進学後も彼らの活躍を期待して、時には厳しく、皆様と共に励まし前向きな声掛けをしていきたいと思っておりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

高校 3 年 卒業式を終えて

昨日無事 40 期生が旅立っていきました。今まで色々な方に支えていただき、感謝の気持ちしかありません。

池江璃花子さんが病気から驚異の復帰を遂げた時、涙を流しながら「努力は裏切らないと思いましたが」と言っていました。先日、羽生結弦さんが北京オリンピックの後「努力って報われないんだなと思いました」と言っていました。この一見相反する言葉の裏には様々な過去があり、一言では語りきれないものがあるのかもしれない。ただ、ひとつ思うのは努力出来る環境にあるというのは幸せなことだし、積み重ねた努力はどんな結果であろうと、その人の人間としての深みを増すものであるということ。どうか、皆さんは努力できる幸せを感謝し、その結果がどうであろうと、積み重ねた自分の厚みを誇りに思い、生きていくって欲しいと思います。本当にありがとうございました。

PTA 情報

本年度の活動状況

PTA 会長

本年度は、昨年に引き続き COVID-19 の状況下での活動となりました。そのため、PTA 幹事会・役員会も回数を減らして開催、例年実施の増穂祭参加や文化講演会、クラス懇親会は中止しています。実施できた PTA 行事は、10 月の私学振興大会（参加は、高校学年代表 3 名と本部役員 2 名、学校側 2 名の少数）、仕事塾は、7 月（アドバイザー 9 名）、2 月（アドバイザー 10 名）、グリーンサポーターの活動です。その中で、仕事塾では、学年団の先生を中心に学校の協力のもとで、7 月（高校 2 年）はオンライン開催、2 月（中学 3 年）は、オンラインと対面併用で開催しました。海外赴任中の保護者のオンライン参加や、卒業生 OB 参加など、例年と違う成果を上げています。また、グリーンサポーターは、ほぼ例年通りの活動ができました。

来期も、新しい生活様式に沿った PTA 活動を皆様と共に楽しく実施して行きたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願い致します。

【学年代表 活動報告】

中学 1 年学年代表

コロナ禍でクラスの保護者懇談会も中止となり、保護者同士の親睦を深めることができませんでした。入学直後は親子で不安も大きかったですが、他の役員の方々とお話することで学校の様子もわかり安心しました。1 日でも早くコロナが収束し、親子で学校生活を楽しめる日が来ることを願っています。

中学 2 年学年代表

お手伝い出来る事がほとんどない一年でしたが、何度か学校に足を運ぶ中、大きな声で挨拶してくれる生徒さん達がとても気持ち良く、印象に残りました。今後も微力ながら、子供達のために出来る事があれば、協力させて頂きたいと思っております。最後になりますが、この状況下で、子供達の学びや活動のために精一杯ご尽力頂いている先生方、本部役員の方々に感謝申し上げます。

中学 3 年学年代表

今年度も、コロナ禍で例年のような

活動が出来ず、心苦しい年となりましたが、活動内容の削減・見直しを行い、極力、対面ではなくオンラインを活用して巣立ちの会の準備を進めて参りました。ご協力いただきました先生方、役員の皆様、1 年間本当にありがとうございました。

高校 1 年学年代表

新型コロナウイルスが猖獗を極めるなか、数多くの行事が中止、縮小になるなど、学校生活も多くの制約を受ける一年でした。PTA 活動もクラス懇親会が開催できないなど、貴重な情報交換の場が持てず、残念でした。

しかし、子供たちは、そうした困難に対して、社会が一丸となり立ち向かう様子を目の当たりにし、自らもその環境において変化に対応していく術を身につけられたと思います。これからも、本校の生徒たちには社会環境に順応しながら、創造性を発揮し、それぞれの個性を伸ばして欲しいと思います。来年度は楽しい行事の多い一年になるようお祈り申し上げます。

高校 2 年学年代表

昨年に続きコロナ禍での行事は色々制限がある中での活動となりました。子供達の楽しみな行事は変更やキャンセルとなり大人も判断が非常に難しい点多かったと思います。その中で少しずつ前年の経験を活かし、活動やコミュニケーションを得る工夫ができたと思います。一方学年代表としての役割は、決して足りるものではありませんでしたが同じ役員の方々、先輩役員の方々に助けられ限られた活動でも 1 年を過ごす事が出来ました。私学振興大会等は貴重な経験となっています。残り僅かな高校生活をお供達と共に大切に過ごして行きたいと思っております。

高校 3 年学年代表

今年度もコロナ禍の影響で様々な制約がありましたが、学校関係者の皆様、先生方、PTA 本部、学年幹事の多大なるご尽力と会員の皆様のご理解、ご協力のおかげで無事に活動を行うことができました。特に卒業対策委員の皆様、短期間でご準備いただきありがとうございました。心より感謝いたします。

後援部情報

PTA 後援部活動報告

PTA 後援部部長

高校 40 期生、中学 21 期生のみならず、また、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。心より喜び申し上げます。

後援部は、みなさまからお預かりしている PTA 会費の一部を芝柏の皆様役に立つ様にどのような支援をするかを検討し実行していく役割を担っております。PTA 会則の抜粋になりますが、施設・設備並びに教育用備品に関する支援について、原則として中長期的視点を持って検討し審議することとなっております。先生及び生徒や保護者からのご要望やご意見を基に校内を回って実態把握を行いながら必要性を検討し、芝柏をより良い環境にしております。

今年度も昨年度に続きコロナ禍の影響はありましたが、審議するための部会は予定通り行えました。その中で以下のように支援をして参りました。学校への支援として、コロナ禍でのオンライン授業に対応するための iPad ホルダーや三脚、化学実験室のシステム戸棚など、また、部活動への支援として剣道部・卓球部が主に利用している第 2 体育館のスポットクーラー、弓道部の弓道場安全板、中学・高校野球部のブルペン用照明施設、吹奏楽部の楽器の修理や楽器ケースの購入などを行って参りました。

来年度は、災害時用の臨時発電施設の導入の検討や、随時、学校内で老朽化した備品・設備や新しく必要と思われる物の支援の検討を行い、生徒の皆様が快適な環境で、勉強や部活動・グループ活動等を活発に行って頂けるよう、また、先生方にも良い環境になって教育、指導し易くなったと実感して頂けるように活動して参ります。引き続き、皆様のご理解とご協力を頂きたく、来年度もよろしくお願い申し上げます。



中学剣道部

県大会初出場ベスト 16

剣道部部长

僕達、中学男子剣道部は中学剣道部が創部されて以来、初めて県大会に出場しました。柏市内の中学校が集まった新人戦で良い成績を残し、県大会出場の切符を手に入れ、県大会では初出場にしてベスト 16 という快挙を成し遂げました。しかし、僕は試合直前に怪我をし、県大会出場を決める試合までは参加できたものの、本番に出られず悔しい思いをしました。他のメンバーも、勝てなかったり、いい動きができなかったりとそれぞれが県大会に残したモノがあったかと思えます。嬉しさや悔しさなど、今回経験した事を無駄にせず、それぞれの思いをぶつけにまた県大会に出場できるようにこれからも切磋琢磨していきます。僕たち 2 年生は今年で中学校剣道部として活動するのは最後の年、悔いの残らないよう頑張ります。



中学サッカー部

柏市新人戦代替大会優勝 !!

年末年始にかけて新人戦の代替大会が行われました。練習に制限がかかる中、モチベーションを維持しながら無事に市内優勝することができました。日頃より生徒たちを支援し、元気に送り出してくださる保護者の皆様に感謝申し上げます。県大会の代替大会も予定されていましたが、まん延防止等重点措置の延長により取え無く中止となりました。今後は高円宮杯、春季大会に向けて練習を続けていきます。新しい代の 22 期生たちは部員数も多く、リーダーシップがあり、エネルギーに溢れる生徒が多いです。素晴らしいことですが、上手く働く時と、そうでない時があります。4 月から 3 年生になる彼らには、自覚をもって行動し、お互いを高め合える選手になってほしいです。23 期生は素直で一体感があり、今後に楽しみです。今回の結果に満足することなく、上を目指し続けて欲しいと思います。



高校英語部

高校生パラメントディベート大会参加報告

去る 1 月 30 日 (日) 第 11 回日本高校生パラメンタリーディベート連盟千葉県大会に、本校から高校 1・2 年生の 15 名で編成した計 3 チームが参加しました。この大会は即興英語ディベートで議会の与党と野党 3 名ずつに分かれて、例えば「選挙は全員が投票しなければならない」「動物実験の利益はその害を上回る」などの議題に賛成と反対に分かれて議論するものです。

本校がこの大会に参加するのは今年が 3 年目になります。本来は会場で直接対面をしておこなわれるのですが、昨年度と今年度はオンラインでの実施となりました。その中今回は高 1 のチームが四試合を 3 勝 1 敗と奮戦して全 20 チーム中 4 位、また他の 2 チームもそれぞれ 2 勝 2 敗と健闘して学校全体では総合第 2 位となり、春の全国大会に本校として初出場します。とても素晴らしい結果ですがこれも過去先輩たちが積み上げていった技術と思いが結実したものと思えます。毎年メンバーはみな、普段はそれぞれの部活動や課外活動、生徒会活動に取り組んでいる有志達ですが、今後も頑張っていきたいと思えます。興味のある人はどうぞ申し出てください。



中学テニス部

中学ソフトテニス部の活動報告

芝柏ソフトテニス部では、テニスの技術はもちろんのこと、学校生活のあらゆる面で常に学ぶことを意識し活動してきました。その努力が実を結び、柏市中学校ソフトテニス新人戦代替大会では、男子ペアがベスト 16、女子ペアがベスト 16 となりました。また、柏市中学校ソフトテニス一年生大会では男子ペアが第 3 位入賞、女子ペアがベスト 16 となりました。今後も自ら考えて行動できる生徒を育てていきます。

吹奏楽部

中高吹奏楽部 活動の報告

コロナ禍で規制の多い中でしたが、今年度も様々な活動を行うことができました。

12 月には部内のクリスマスアンサンブルとして、グリーンホールで保護者を招いて発表会を行い、パートごとに情熱的な演奏を披露しました。

また、1 月には個人コンクールの東葛飾地区予選が行われ、高校 2 年の H 君が優良賞、中学 3 年の I 君が優秀賞、会長賞を受賞しました。I 君は地区代表として 3 月の千葉県大会にも出場します。

このように合奏以外にも活躍の場が広がり、一人一人もさらに熱心に練習に取り組む、パートでの響きにもまともりができています。現在は熱心に 4 月 24 日 (日) に開催される定期演奏会へ向けて練習に取り組んでいます。そこで大きな成果を出せることと期待しています。

臨時休校の影響もあり、十分な練習時間の確保が難しいところではありますが、定期演奏会では、夏のコンクール演奏予定曲である「レジェンド」(中)、「ロマネスク」(高)などの演奏を予定しています。万全の感染対策をしつつ、本番へ向けて練習に励みます。皆様に心からの演奏をお届けできるよう頑張ります。



生徒優秀作品

